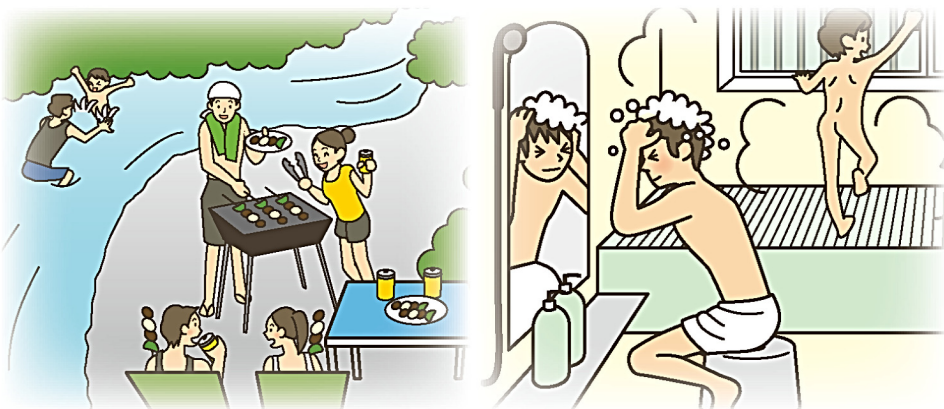




溺れる

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



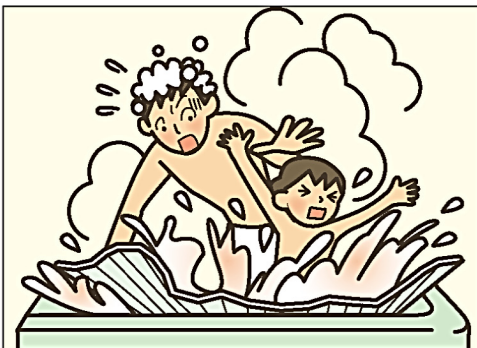
事故予防のためのチェックリスト

- 川や海で小さいお子さんを注意してみていますか。
- お酒を飲んだときに川や海に入ったりしていませんか。
- 小さいお子さんが危ない行動をしていないか見えていますか。

事故例



お酒を飲んで川に入り溺れる



浴槽のふたが外れて転落し溺れる

— 「溺れる」は高齢者で多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者

- 長風呂を不審に思った家族が浴室を確認すると浴槽に顔が浸かった状態だった



大人

- プールで遊泳中に溺れた
- 川や海で溺れた

子ども

- プールで溺れた



乳幼児

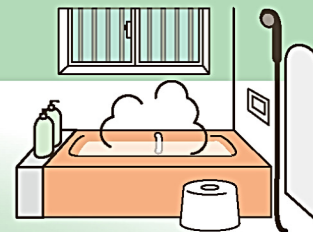
- ベビーバスを使用して背中を洗っている時に顔がお湯に浸かっていた
- 母親が自身の体を洗って目を放した際に浴槽内で溺れた



3 事故予防対策

寒い時期の熱いお風呂

持病のある人は、かかりつけの医師に相談し、入浴時の注意事項を確認しましょう。



小さいお子さんから目を離さない

乳幼児をお風呂に入れる時は、わずかな時間でも目を離さないようにしましょう。また、お風呂に水を張っている時は近づかせないようにしましょう。



ライフジャケット着用

川、海では小さいお子さんにはライフジャケットを必ず着せましょう。

溺れる事故の中で最も多いのは浴槽内で溺れるものです。入浴中は、ひとりであることが多いため、発見が遅れ、重症化しやすくなっています。

